

お釈迦さまと動物のお話

「ゾウ」

ゾウは日本では動物園で見ることがありますが、インドではゾウは生活の中の身近な動物です。インドの人にとってゾウは働き手であり、宝物でありペットであり仲間のような存在です。また神様のおつかいでもあります。お釈迦さまがおられたころもきつとゾウは身近で親しい動物であったことでしょう。

そんなゾウさんのお話を一つ。
昔むかし、インドの中の国の王様がゾウを飼っていました。そのゾウはとても心やさしくて、みんなからかわいがられていました。
ある日ゾウの小屋に盗ぞくたちがやってきて、盗んできた宝石を自まんしあいました。
「今日もたくさん盗んできたぜ」
「じゃま者はいたためつけてやったぞ」
それから毎ばんのように盗ぞくたちはゾウの小屋にやってきては、盗み自まんをするのでした。

ゾウは盗ぞくたちの話をじつと聞いているうちに、乱暴なことをすることが良いことだと思ふようになりました。とうとうゾウは、お世話をしていてくれる人に乱暴してけがをさせてしまったのです。
王様は変ってしまったゾウにおどろいて、大臣を呼びました。

「なあ大臣、ゾウはどうして乱暴になってしまったのだろう。早くもとの心のやさしい象にもどってほしい」
大臣はゾウの小屋にいったみました。すると小屋の回りにはお酒のびんや食べ物、盗んできた宝石がありました。
「盗ぞくたちが来ていたな。ゾウは盗ぞくたちの悪い話をずっと聞いていたのだ」
大臣は王様のもとに行つて、言いました。
「王様、ゾウは盗ぞくたちの話を聞いて、よいことと悪いことの区別がわからなくなったの

だと思ひます。

「それならすぐにゾウに言い聞かせてくれ」

「かしこまりました」

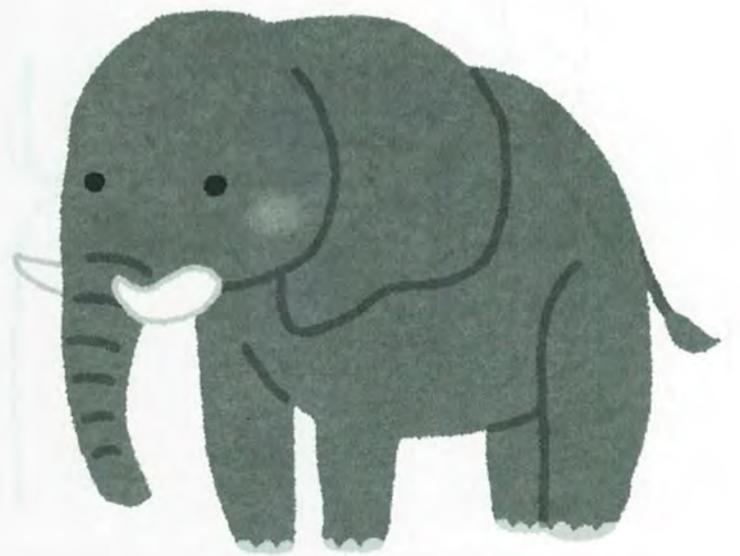
大臣はゾウに向つて語りかけます。

「ゾウよ、よく聞いて本当の正しさに目覚めなさい。みんなが喜ぶような行いが正しくて良い行いなのだよ」

「そうだ、乱暴なことをするのは人が悲しむことなんだ。これではいけない」
ゾウは自分がまちがっていたことに気づき、

それからは元のやさしい心にもどり、人々の役に立つ思いやりのあるゾウになりました。

この時のゾウを説得した大臣は、お釈迦さまの前世の人だったということです。



これも仏教の言葉だよ!

「無残」



無残は無慚・無慙とも書きます。残酷なこと・乱暴なこと・気の毒なこと・いたましいこと・あわれなこと・かわいそうなこと、の意味です。

無慚は煩惱の一つで、仏教の決まりを破つても、全然恥ずかしいと思わないことをいいます。慚とは仏さまの教えに照らして恥じる心のことをいいます。

無慚無愧とは、罪を恥じる心がないこと。破戒無慚とは、お坊さんが決まりを破つても恥ずかしいと思わないこと。知らず知らずのうちに決まりを破つたとしても、恥ずかしい気持ちを持つことが大切です。逆に決まりを守らないで、「何が悪いんだ」などという心は無残(無慚)というのです。

「ごんない」という言葉があります。「慙無い」と書きますが、無残から来ていて、見るにしのびない、見苦しいという意味です。

ちがいがし

みんなよう 考え



絵：岡本こずえ



お知らせ

みなさんからの記事を待っています。学校でのこと、家の中でのこと、家族のこと、友だちのことなどを書いて送ってください。またみなさんからの作品も待っています。絵や作文、お習字など何でもけっこうです。

◇送り先は 〒833-0013 筑後市北長田706-2 林鐘院内 浄土宗児童教化連盟事務局

TEL 0942-5215524 FAX 0942-541189

感想もいっしょに書いてくださいね。

右の絵と左の絵の違いを5つ見つけてください。

ハガキに答えを書いて左記まで送ってください。正解者の中から抽選で30名に記念品をお送りします。記事の感想や意見もいっしょに書いてくださいね。しめきり10月31日です。

送り先

〒833-0013

筑後市北長田706-2

林鐘院内

浄土宗児童教化連盟事務局

TEL 0942-5215524

FAX 0942-541189

前回の答え



ぶくぶく編集室



お仏壇で使うろうソクの火が原因で火事になったというニュースをたまに聞きます。

ろうソクも線香も火を使うので、人が見ていない時は危ないですね。最近では火を使わない電子ろうソクを使う場合があります。電子ろうソクは乾電池を入れて使うので安心です。特におじいさんおばあさんだけの家では、安全のために使うケースが多いようです。

お仏壇にはろうソク以外に電気の明りがあります。吊灯籠といいますが、本当の火ではないので安全です。お家によっては一年中明りをつけているところもあります。

古いお仏壇の中には、コードやソケットなど電気系統の部分が古くなり、漏電となって火事の原因となります。電気を使っているから安心していても、絶対ということとはありません。油断大敵です。何ごとも大丈夫と思っていることを、たまには見直してみる、点検してみることも大切ですね。